

Low and

4ねんP6み Low

ながみ ことる

その1 Tour de Kinokuni

プロローグ (こゝかたんたんに)

“大杉谷は良い”といううわさはぼくの
入部当初(1977)からしつぷりに流れていった。

そして1979年の秋だらたかにはアホな観見光容
どもが大杉谷のツリ橋を落としてしまった。

1980年春、ローテーション廻り、紀伊半島に
春合宿が決まり、そのコースに入っていた大杉谷と
大台ヶ原はぼくのフリーランのコースに組み込まれた。

Act 1. 閉ざされた道 3/20 1980.0

事前に大杉谷から登大台ヶ原への道は通行で
きなり事がわかっていたので大台ヶ原有料道路
が大台ヶ原に入って大杉谷も見るともりで熊野
でアール・ラインを降りた。

大台山荘に宿の予約をとるつもりでTELを入れたら、なんと積雪のため道は通行止めだと言われてしまった。

ビービーもなくなったのでどりあえがR168を北上する事にして新宮に向けてスタートした。

本宮で昼食の後、宿を川津ユースに予約してから二津野ダム(ひとつしかない)の登りにかかったが、向風と延々と続く上りに完全にうちめされてしまった。しかも頂上に着いてみたらはるか下にダムが見えるではないが、何もこんな高い所~~に~~道を通す事はないではないかと、おまけにひらがなで「ふたつのダム」なんて看板が出ているからどこにふたつもダムがあるのかしばらく悩んでしまった。(よくに地図をみないで走っているのかハッとしてしまった)

とにかくユースについてみると大学生らしいサイクルチームが3人おられたが、それを見決して自分の方から大学の名前を告ぐので(ふつう自己紹介で「ふりやろと思ふたわけ」)聞いたら東大のおぼっちゃまだ「あそびで、東大生とゆーものはそんなものかと納得してしまたかしかしねえ。

ユース五区(おの大学には良くある)のせいかまだなにかねどえりおとないしゆーか品の店におぼっちゃまで「割りました、ちみみに彼らは八幡橋平で79の夏と雨にまかかわらす「ハイキング」に飲で行った途中の序にりたろでてこりかおぼっちゃまはさういふことをするやほ。

Act 2. 矢なわれた道 3/21 ①→②

やっぱり大台ヶ原にはみれんかあったので歩
て登る事にした。(おろかにも)

地図を見てもうとわかるが、R168とR309
の間にはるく大道がない、と言わねば必然
的に行者遣林道を通る事になる。二つして
悪夢は始まった。

雨と水たまりにあるアツアツダウンをのぞけばR168
はなかなか良い道であつたし反本から天川村への道は
雨も上つて最高にゴキゲンな道であつた。

天川村で履合と刈り合料を付入れて林道に
入った最初程の林道は何事もない沢を山の麓
や山道がつつりたが最後の支線と別かれ
しは「S」くると急にゾットかほえるにたつた。

ほろろといつても上は喜ぶかこころこころ
かえつて臭味かわるい。

そしてふと上を見ればおかしな山(おかしな山
か見た中で最も高い)色も通つた(山頂は
みえたのではたらく山頂を上げたAVCの山頂)

道の登り方も今アツアツと上つた山頂は
山はた「ま」か「ま」けりかたなるため上つた
までも登つてついで沢をどんがまでもおろか
たしてまにまに上へ登つて行くと上つた
荒れついで林道である。(図 2)



しかもおろしに
まっしていろ
ハッ ハッ カッ
と石ががのにかさ

て来る。道の上下は雪と氷の層がたいていながかこるころ
にいろしとるの口から一度でたての氷がカーブ
を回るところからハッ カッ とまるところが
しなかった。

Uターンした所からまたダクトのE30のFが何と
か下を照らすので下には雪が下の道が長くといろの
ながながおろし。

頂上のところへ近くなるとまたほろにいろか、こ
ころの道のときは雪がたいてい、氷がたいてい
氷層を滑り道がたいてい作っている。

とにかききききききききききききききききき
組かた。

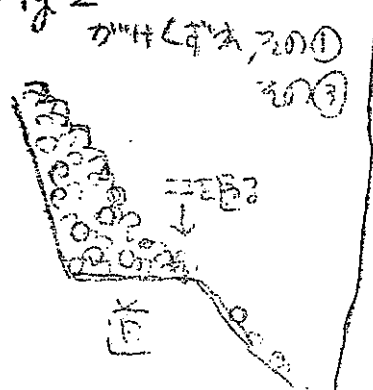
頂上の行着るところは標高1100メートルを
から長さが1151メートルをたいてい、氷がたいてい
に電灯はたいてい。

とにかききききききききききききききききき
に、氷がたいてい、氷がたいてい、氷がたいてい、
中はたいてい、氷がたいてい、氷がたいてい、
の中身はたいてい、氷がたいてい、氷がたいてい、
中身はたいてい、氷がたいてい、氷がたいてい、
中身はたいてい、氷がたいてい、氷がたいてい、

トンネルを抜けたから10分ぐらいは大台が原も見えず、
 小峠に下ったのが-----。

まずかきくすれ第一弾に出会った。(四ツ)

Fig. 2



これは自軍車をかきくすれで軽く
 パスした。

そして50mを下ると川内に2かきく
 すれパーナにぶつかった。(四ツ)
 これはその①より大きな石でできて
 いて道が完全にふさがれた上に
 どのあたりに根のつぎ落ちたま
 木が乗っかかっているのか
 はわからない。

Fig. 3



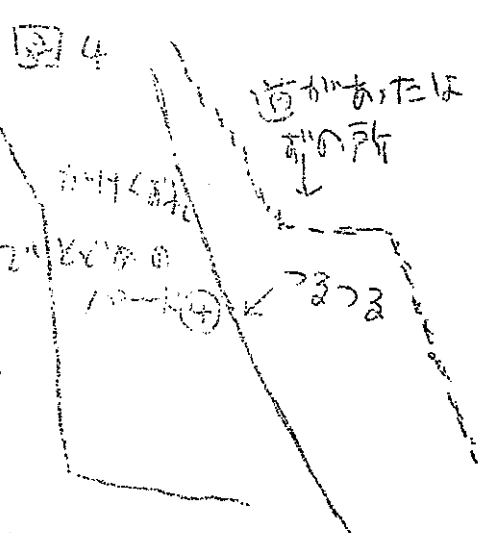
かきくすれは300m下り道打のつた
 コーナーにたどり着くとこの
 ところには大石も入らずに
 川から石が落ちてきた跡を
 してはいるので、土が崩れて川に落ちた
 大石が原因で、結局、自軍車が片側
 の土を踏み下すことになり、
 下をくぐり、どうやら通り抜けか
 した。

かきくすれは300m下り道打のつた
 コーナーにたどり着くとこの
 ところには大石も入らずに
 川から石が落ちてきた跡を
 してはいるので、土が崩れて川に落ちた
 大石が原因で、結局、自軍車が片側
 の土を踏み下すことになり、
 下をくぐり、どうやら通り抜けか
 した。

かきくすれは300m下り道打のつた
 コーナーにたどり着くとこの
 ところには大石も入らずに
 川から石が落ちてきた跡を
 してはいるので、土が崩れて川に落ちた
 大石が原因で、結局、自軍車が片側
 の土を踏み下すことになり、
 下をくぐり、どうやら通り抜けか
 した。

えーかかんつかねとたのつかをまでとにと自転車
を押し行つて、エリ察に行つてこしをぬがした。(図4)

とにかく2~30mにおかつて
道がなくたはのては村の
スパー永見君も余命がつかぬ
けて15分ぐらゐるにた利にた
いた。

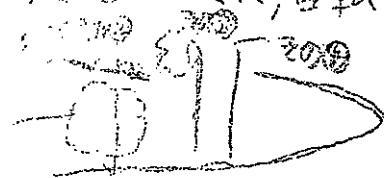


をてパンと食ひたを飲んで
おさつかせ(た利判自命を)
回りを見回して15分ぐらゐ
うさうさして思考をたにかく整理した

つた、まがにと死ぬつもりはた事 次た今た
まがたはたた事、をて向う側の道に出るは
不可能てた事、約50m下にた利返してた道か
通つてた事である。

結局Totalで30分ほーせむとした後ボトのたを
全部をて自転車からたたた類をはずしてたフロ
ットを首に下たたのたに手首を通しかけをた
たはたのたにたた、フロットはたたかたたのた
たたかたをたたした。たはた50mのたたはたの
たて自転車も首にたたたたたたた人、自転
車たたたたたたたたたた。

したたた工學のおつたた
かたたのたたたたた



ほとんども自車庫を下りし始めのあたりマイクバスで帰って
来た。ついででやんの。

モーニク在所には長居は無用なのでととと下った。
林道の出口に、かたくすれにつき通行止めの看板が
でかでかと出てくるのはハラハラ、反対側にも
出しつけよなオマエ。

新伯田峰トンネルを二えて大迫ダムハマリがに
行く際時も入之波の容に三がリムた時モ
精神的にうすのめさおていてえらく苦しかった。

Act 3 ゴーストタウン 3/22 ④→⑤

朝から小雨が降っていたが、天候が回復朝といは
予報報を信じて大台ヶ原にアタックした。

途中で社会人の3人パーティーと出会い同行させても
らったおかげでどうにか大台ヶ原に登る事ができた。

一人下ったを引返すしかたないくらい積雪がひどく、
ひざまでまぐさ雪の中を必死に登った。

一台も車かどおいていたりた、駐車場の周囲に
レストハウスのかたつらんだ。さうしてアールラインの五合目
に冬に来たにうたつた。一そんたさながらゴーストタウン
の中に雪まみれで織立っているように見えて遠く
ニんてした。

3/23 ⑤→⑥

とにかく一泊して朝起きたらふたつていた。

食料はあったが、しーもなり山小屋の藪藪さん相手に一日つづき、早気がしなかつたので他の3人と下山し荷物を置かずしてあった入之波の宿にもいった。

Act 4 春が来た! 3/24 ①-④

大迫ダムから新伯母峰トンネルへの登りをはじめて11時、雪がふり出し、連日一台も通らねた夕方のころが音と雪のふるやわらかな音以外何も聞こえなかつた。

風もなく垂直に落下する雪につつまれ全ては静寂に包まれた。

峠と記されたトンネルの入口に着いた時、帽子とフロントバックにつまった雪を落しながら下りはじめた。さびたころなと思ひ、ヤッケなんかをあらたけ着こんで防寒態勢に取組む。重し心を引きずるトンネルに入ると、----- 体制

春が来ていた。トンネルを抜けるころにはもう春だった。空気が暖かく、青空と雪のけいれんと、それ何れもお日様!

与えられて初めて自分が何をほしかったのかわかったのと、ふくふくと着るころに自分がおかしうてしかたなかった。

サイクリストには、走れる道とお日様が一個あれば充分な人だと、面白がるにしろなかつた。坂を歩いていて本当に幸福な気分になれるのは、自分のセッティングした所でも春観光各所でもなかつた。二度と戻る事のできる11時の流れの時のある所に自分がいるんだと気付いた時だった。

その2 Eco cyclism -旅の方法-

ぼくは、観光客(ぼくの定義は場所の)が単純に
きらいである。つまりゴミをすてるから(所かまわず)

そんなわけでぼくは彼らと自分を区別(差別)
する理由を考えた。

考えてみると共通点ばかり出てくる。世間一
般、または経済学的に見れば"ぼくとしてレジャーとして
他の町を訪れ、何かしらの金を使って(たゞ之旧二冊
でも)去つて行く観光客である。結局、残されたのは
心と行動だけ... ゴミはゴミ箱に、少なくとも地方
自治体か処理してくれる所まで持っていく、こゝ...
二枚だけか彼らとのちがひ。

ぼくは山屋(登山者)を不信の目で見る。彼らは明
らかな自然破壊者である。夏の北アルプスはゴミ
の山だし冬山登山者はゴミを雪にうめて下山し、その中
は各国の(特に日本の)遠征隊の置き去りにしたゴミで
あふれている。一部の者のやたら事なごうか何なごうか
自然破壊という点から見れば彼らは一般の観光
客と悪質だし今はかつての公営企業の方が良心
的ではある。

ぼくが生きて(生物として)られるのはもちろん現
代文明のおかげである。つまり自然の中で自分だけ
の力で生きられるわけではない。だからどんなに山
の自然が好きだろうと現代文明の在り方が入ら
なくては現代文明を否定する事はできない。

同じ様に一応無公害であるはずの自転車もフレームは製鉄所、軽合金は大量の電気を消費するアルミニウム系製鉄所で作られる。

つまり公害あるいは自然破壊と密着して自転車やサイクリストは直接的には無罪かもしれない。しかしその存在自体あるいは意味が現代文明の産物である以上これらの現代文明のひずみ~~を~~を非難したり目をそらしたりはできない。

何れもサイクリストが走る道自体、文明^{単純に}の代表的産物である。

そしてこれらの道は第一義的に自動車のために作られたものがほとんどである。

ほくか峠で見える風景をどの様に感動したともその足元にある道程は山をけずり木を切りたおして出来たものを。

今着ている羽毛服は水鳥の羽をむいたものだし鼻をかいたティッシュは東南アジアの山をへが山にしている。

ほくか何故、旅-サイクリングに出るのか自分でも良くはわからないうえにほくか"そこに求めるのは人間社会と自然(あるいはそれらしきもの)との調和的なのです。それは、もしかしたら「いなか」とか「街道」とかの言葉で一部を表わせるけれども結局都会生活者の勝手な好みでしかないのかもしれません。

旅の手段として自転車はたいてい「走る」として

思ふ(老翁はほんの少ない経験の中で「自然」)

それは、~~自然~~、何れにしろは自転車に乗る時の中
がよとも相性か良からた事と自転車に乗る時
で直接自然を傷つける事が無い事が立証され
た。(その傷あとを走るとは結局はあつた)

美しい山なみを見たりしてその山々を破壊して
造ったスカイラインを走る時ふとどその山々を破壊して
におきおれどする。

ふ 忘れたお花畑で一人の少女(別な場でもいい)が
お花を一輪摘み取るとそれをそれだけなす前に問題
に思ふた。それは充分なお花畑の再生能力
に収まるから。

だが既に現代社会では、一人の人間が
お花を思つた500万人は同じ考えをして118と思つ
まふかりなつた。それはお花畑は全滅する。

100万年前はともかく今は自然に対して人間の力
は圧倒的に強くなつた。たゞそれは我々の何げ
なり行為がするは自然をためつける事に加担して
おもしろい。

もと人間以外のものにも目を向けてない
筈なのに地面は厚いゴミ箱でもなつた。

サクリストと言ふ言葉が「単なる自転車乗りで」
終つた。あの口を我々は~~無言~~旅人であつた。

サクリストは、ただ「そこを」通りすぎるのみ……
一 圓の様だ。

ちなみにヘッドを抜く輸送を招くは存在の時
のシステムにした方が良かった。

なにかかかこ良いシステムにしたばかりに輸送行
の時システムが抜けてきて苦労して118人へ私が最近
開発した必殺技を公開した。

① まず引上げボルトをゆるめる。ふつはニニで軽人
ボルトをたたくと抜けるのがかどーしてはボルトは、

② 自転車ごとにかかまて持ち、10cmぐさりの高

Iからやや力をセーブしてボルトに押し重さにか
かぬように軽く落とす。この時、ボルトをはずして
おくとボルトの頭以外はずつつくことよく楽にスラム
は抜ける。(何か空気中の説明たなつてた)

ニニおとしを早くもせよ、30/600フットは材質
がやわで「ハブ」から抜ける。サンダーウルト36
キエはこれもやわで「Turde kinokuni」の最中に
プレートが欠けた、最後にストロングラフ49Dのクランク
はペダルをくわえふたままはなさない。もつおまに
ナショナルの単ニX3ケ用のバッテリーライトはスイッチに
根性がない。

ニニにも使った様な部品を集めて一台
ポタリング用に作ると思ってるのだから心走るかな。

走っていると思わぬ歌いたくなる様な気分にな
たり、「二の道のBGMは---」などと思ったりする
事がある。それは30/600と200気分の良い時だ。

そんなわけで結局ワークマンを買ってしまった。

最初は面白かったけど、その内、113113急付いてきておけです。

まず単に性能面では、ノイズが少し大きけれど、外部騒音を考慮すればまあ聞けるし操作もフロッピーの力で今世紀でいける。段差やダートには弱いが、ふつうの道なら別に問題はない。

ところで実際に、聞きたがる走ってみると、むしろ曲がその時の心理状態や道のある程度フィットしているが、エロク、ノッてくる。けれども人間の頭にはキャパシティと言うものがある様で、市街地走行や、T.T.にはちよと向かい様なつまりヘッドフォンはどっちかと言うと強制的に聞かせる面があるので、へたをすると単にBGMとして聞き流せなくてわすらわしい時もある。サイクリングの中は静けさを楽しむ事も入っているのだから。

けれども好きな時に好きな曲を聞ける事は多少なりともサイクリングの幅が広がったと思う。

もともワークマンを使うのは一人の時に限られるけれど。

その4 やっほりサイクリングだなっ!

今さら サイクリング(自転車を媒体とする諸々の行動)
が良いのすばらしいのと言ってもしよ一もな事だけれど
やっほりサイクリングです。

もはやクラブの方は遠く出されつつあるほくが
けれどクラブのOBにはなってもサイクリングのOBに
はなると様な気がする。もし10年後、20年後の
ほくがサイクリングをやっていたらそれは今考える
に、とても奇妙な事だと思ふ。

明日に向けて

あたたかき日差しの中を、土砂降りの冷雨の中を、
苦しい登りを 舞り落ちて行くダウンヒルを
風の様に走り抜けて行く旅人よ。

何を求めて、何から逃がれて

Topをふみ Lowを回し

汗と呼吸だけを残して行く旅人よ。

出会いと別れと

孤独と仲間たちと

何を得て何を失ったのか旅人よ

帰る所がある、失うものもある、旅人よ
雪に閉ざされた二の道を
水に沈んだあの田畑を
そこに見る事が出来るか。

旅が終れば町に還る 旅人よ
風のささやきを
路傍の仏にささげられた思いを
聞く事が出来るか

明日に向って行く旅人よ
答之の無い問いと
問いの無い答之と
風の様に走り抜け行く旅人よ

by S.N.

Bon voyage!